

女子大生の色彩イメージから見る，生活感， 東京イメージ，在学大学のイメージについて

竹 田 せ き 子

おお 色彩がある
青 黄 白 赤 そして緑！

おお 音がある
ソプラノ バス ホルン オーボエ！

おお 言葉がある
母音 詩句 韻律
脚韻の対応のこまやかさ
文章の行進と舞踏！

色彩 音 言葉との遊戯に興じた者
それらの魅力を味わった者
その者に世界は花開き
笑いかけ見せてくれる
秘められた心と意味を

後略

……四月の夜にしるす
「ヘッセ画文集色彩の魔術師」 p.122

はじめに

「ヘッセ画文集色彩の魔術師」と題された文庫本を店頭で見かけて手にした時の得も言えぬ不思議な感動は，もう何年も経つのに，この小さな本を手にとると蘇る。

緑と赤が多く使われた明るいどこかマティスの色々に似た感じの，どちらかといえば筆者の好みの色調というわけではないのだが，なぜかこの素朴で明快な絵のどれもが，素直に物静かに筆者を魅了し，机辺にあって折々に手にする一冊となっている。

誰のどの絵に限らず，筆者にはかねてからの疑問というか不思議に思われることに，なぜこの絵はこの色なのかということがあった……永遠に解けない愚問なのだが。

人は，いのちを得てものごころつく前から，音と光と色彩につつまれて育まれる。生まれ育ちゆく中で，音は，言葉や音楽はもとより様々な自然音や環境音とともに，光と色彩は，衣服

や絵画はもとより自分を取り巻く様々な事物とともに、それらさまざまな音や色彩を自分の中に取り込み位置づけ自分用に分化統合させて、人間社会で人間として生きていく自分自身を築いていく。言うならば、自分色を見だし、自分の人生を自分色に染め上げていくという表現もできるだろう。もとよりそれは一色や二色というものでなく、何色^{ナニイロ}とも言えるものではないだろうが。

従って言うまでもなく、そうして成長発達していく個人は、一人一人がその育ち生きていく環境や文化、経験が違うのだから、個人として好きな色、嫌いな色、多用する色、心安らぐ色と言っても実に様々である。さらに生活文化との関連で言えば、個人の生まれ育つ文化社会によって、多用される色も象徴される色も違ってくる。例えば、慶事弔事の色には、文化により歴史により違いがある。また、国旗などに示されるシンボルカラーとして、例えば、フランス国旗の青、白、赤はそれぞれ自由、平等、博愛を象徴し、イタリア国旗の緑、白、赤はそれぞれ豊かな森林、自由、独立のために人々が流した血を象徴するといったこともよく知られていることである。

一口に赤と言ひ、青と言っても、そのイメージされる内実もまた実に様々である。

赤は情熱の色、青は沈静の色などと広く共通するイメージとして一般的には言われているが、人類が長年交感してきた太陽や炎、海や水といった自然との関わりの中で培っていったイメージとして共通性をもっているのだといわれるものである。焼け付くような激しい太陽もあれば、暖かくおだやかな太陽もあり、荒れ狂う嵐の海もあれば、透き通る静かな海もあり、誰にとってもいつでもそうであるとは限らない。そういった一般的で共通するイメージと共に、個々の人に特異な個人的な赤イメージ、青イメージがあることも論を待たない。

そうは言っても、音にしろ、色にしろ、自分だけのものではなく、個人がおかれる環境の中には、個人が知りうる、扱いうる音や色以上に、はるかに多くの、いやむしろ、際限のない音や色が氾濫していると言った方が正しいのだ。そういう中で、共通して好まれる色があるとか、ある対象に対して共通して抱かれる色イメージがあるということは、むしろ一体何を意味すると言えるのだろう。無論一つには、人間の共通性や普遍性からきていることも容易に肯かれ、対象事物の側の共通性ということも言うまでもない。

人は、物理的にも心理的にも何時間も、同じ光を同じように見続けられないし、同じ音源を同じように聞き続けることは出来ない。現実にも普通はそんな状況にはない。

音は、消えいっていき、止んでは入れ替わり立ち替わる。

色は、はかなく、移ろいやすく、さめやすく、色落ちして無に帰しては再現していく。

このように、音も色も、我々人間には、自らの聴覚や色覚の感覚器官と脳における聴覚野や視覚野の働きでとらえられた限りでも、絶えず生成消滅するものである。

この絶えざる生成消滅こそが、おそらく、人間の共通感覚としての好みの色の共通性や、共通する色イメージをもたらせているのだと、筆者は仮定しておきたい。

本稿の問題

今日の環境世界には、音も色も雑然と氾濫していると言われる。雑多な都市空間の、様々な音や色彩で、特に東京はひどいと言われる。

商業主義的には、色彩イメージでアピールしようと、毎年流行色が決められ、企業戦略として、シンボルカラーが採択されている。自社の商品を、品質や性能は言うまでもないが、どんな色で売り出すかは販売戦略からすれば重大事である。

品質だけは負けないといっても、まずは人々の手にとってもらわなければならない。というわけで商品そのものも広告上も、人々にアピールするためのカラー戦略から、様々な色が溢れかえることになる。

本学でも15年前に、65周年を記念に、文京学園のエンブレムと共に文京カラーを決めてシンボルカラーとしてきた。15年後の今日、学生たちは、文京カラーをどのように認知しているだろうか。

流行色や、ファッションに敏感な今日の女子学生たちの色彩感覚についてさぐってみようというものであるが、在学する大学、短大をどんな色イメージで見ているのか、彼女たちが学生生活を送る東京という街について、あるいはそこでの自らの生活をどのような色イメージでみているか、今回は、素朴にそういった問いかけに回答してもらった結果である。

方法

2003年度、2004年度の前期5月下旬から6月初旬の、ちょうど、色彩知覚の授業の頃に、心理学受講生たちに、後掲のような「色彩イメージ調査項目」に記入してもらった。教示は、あまり考え込まないで、今のあなたの気分や状態で、気軽に、あなたの色イメージで、色で言えば何色という感じなのか記入してください、といった教示である。調査項目最後の5番については、2004年度の一部のクラスのみの実施である。両年度、学部生群、短大生群の分析対象数は、結果を示した各表に記入したとおりである。

結果と考察

今回の分析対象とする項目は、以下の設問である。

- 1 あなたの好きな色は、何色？
- 2 文京学院大学を色で言えば何色？
- 3 文京学院短期大学を色で言えば何色？
- 4 東京は、色で言えば何色？

5 今のところ、あなたの生活は、色で言えば何色に表現しますか？

補1) あなたの嫌いな色は、何色？

補2) あなたは、色が気になる、気遣っている方ですか（はい、いいえ）

どんな時・事に、またはどんな風に気になったり、気にしたりしますか。

上記の設問にはいずれも、1色だけでは一つに絞ることが大変であり得るし、3色以上では多くなるきらいがあり、抵抗少なくぱっと思いつけるであろう2色までをあげてもらったこととした。

また、これら表1から表5の順位集計では、記入された色名について、漢字、カタカナ、平仮名、和名、英名の区別をしないで、例えば、青、青色、あお、アオ、ブルーあるいはblueと書かれたものはすべて「青」としてカウントしている。こういった色名の標記の違いとその意味するところ、ニュアンスの関係を見るのも興味深いことだが、別の機会に譲ることとした。なお、各表の順位の上あげた色表現総数欄には、上記の青、青色、あお、アオ、ブルーあるいはblueそれぞれを別々に表現された色表現としてカウントした総数を示した。

1 あなたの好きな色は、何色？ 嫌いな色は？

表1は、「あなたの好きな色は、何色？」という設問で、2色まであげてもらったのを、回答者群別に集計した結果である。表中の応答比率とは、各群毎のその色を表記した人数の、群総数に対する比率のことである。

学部生、短大生、2003年度、2004年度の4群とも、**ピンク**が第1位にあげられ、各群3割から5割という多くの学生が好んで挙げている。ついで、**青**、**白**、**オレンジ**、**黒**が4群とも5位までにあげられ、**黄色**、**赤**の2色は、4群とも、8位までにあげられているが、**黄色**が、2004年度短大生群では4位に、2004年度学部生群では6位にと2割前後の学生たちがあげている。

2004年度短大生群では、他の3群が8位までにあげる水色に対して、群内・14%の短大生が、**緑色**を8位にあげている。

表1の色表現総数は、参考までに、今回の回答者群が群全体としては、好きな色としてどのくらいの色名が表記されているかをみるために、記入された色名について、漢字、カタカナ、平仮名、和名、英名等、すべて区別して、例えば、青、青色、あお、アオ、ブルーあるいはblueと書かれたものはすべてそれぞれを1表記としてカウントしたうえでの色表現総数である。

2003年の学部生群では38色表記、短大生群では34色表記、2004年の学部生群では37色表記、短大生群では40色表記だったということを示している。呈示された限られた色見本の中から、好きな色を選択するとか、あるいは好きな順に順位をつけるといったやりかたではない、自由記述での色彩名表記なのでこれだけ多様に記述されているものだが、この数が多いのか少ないのか、好きな色の色名が多様化していると判別しうるものかはさらに検討を要する。

表1 好きな色は何色？（2色まで記入）

好きな色は 回答者合計	学部生03 130人	短大生03 118人	学部生04 124人	短大生04 101人
色表現総数	38	34	37	40
1位 回答者数 応答比率	ピンク 65人 50.0%	ピンク 47人 39.8%	ピンク 44人 35.50%	ピンク 29人 28.70%
2位 回答者数 応答比率	青 38人 29.2%	白 39人 33.1%	青 31人 25.0	黒 23人 22.8
3位 回答者数 応答比率	白 30人 23.1%	オレンジ 29人 24.6%	黒 28人 22.6	オレンジ 22人 21.8
4位 回答者数 応答比率	オレンジ 27人 20.8%	青 27人 22.9%	オレンジ 26人 21.0	黄色 21人 20.8
5位 回答者数 応答比率	黒 24人 18.50%	黒 26人 22.1%	白 26人 21.0	青 19人 18.8
6位 人数/%	水色 23/17.7	赤 17/14.4	黄色 23/18.5	白 19/18.8
7位 人数/%	赤 16/12.3	黄 16/13.6	水色 18/14.5	赤 16/15.8
8位 人数/%	黄色 9/6.9	水色 16/13.6	赤 17/13.7	緑 14/13.9

補表1 嫌いな色は？（2色まで記入）

嫌いな色は	学部生04 124人	短大生04 101人
色表現総数	56	45
1位	灰色 23人	紫 14人
2位	紫 11人	灰色 12人
3位	黄土色 10人	茶色 7人
4位	赤 9人	黄土色 6人
5位	黄色, 黒, ピンク 各6人	ピンク 5人
	特になし 9人	特になし 11人

全群でとれなかったもので、参考までにということで、2004年度生の嫌いな色についてみると、合計225名の回答者たちは、学部生で56色表現・短大生で45色表現とやはりさまざまな色表現であげており、嫌いな色については好きな色以上にばらつきが大きいことがうかがえる。灰色、紫、黄土色・茶色などを1割強の学生があげているが、多くの学生が好きな色のトップにあげたピンクだが、この2群の両群とも5%ほどの学生が嫌いな色にあげている。また、嫌いな色は特にないと記入した学生も1割ほどいる。

2 文京学院大学を色で言えば何色？

表2は、「文京学院大学を色で言えば何色？」という設問で、2色まであげてもらったのを、回答者群別に集計した結果である。

4群とも圧倒的多数が、緑色をあげているのは、文京カラー戦略が定着してきたことからといえよう。短大生の45%から53%、特に学部生は、68%から76%と7割から4人に3人の学生

表2 文京学院大学を色でいえば何色？（2色まで記入）

回答者合計	学部生03 130人	短大生03 118人	学部生04 124人	短大生04 101人
色表現総数	45	40	40	28
1位 回答者数 応答比率	緑 88人 67.7	緑 53人 44.9	緑 94人 75.8	緑 53人 52.5
2位 回答者数 応答比率	白 38人 29.2	白 34人 28.8	ピンク 31人 25.0	青 18人 17.8
3位 回答者数 応答比率	ピンク 19人 14.6	青 27人 22.9	青 21人 16.9	白 16人 15.8
4位 回答者数 応答比率	青 19人 14.6	水色 12人 10.2	白 20人 16.1	赤 12人 11.9
5位 回答者数 応答比率	水色 14人 10.8	赤 11人 黄 11人 各9.3	オレンジ 11人 8.9	水色 8人 7.9
参考までに	エメラルドグリーン 8人	エメラルドグリーン 5人	エメラルドグリーン 4人 文京グリーン 1人 文京青色 1人	エメラルドグリーン 4人

が、緑イメージをあげ、以下5位までみると白、ピンク、青、水色、オレンジとなっているが、5位の水色やオレンジは1割ほどの学生があげているに過ぎない。

学部生群が2番目、3番目にピンクをあげているが、短大生群からは数名しかあげていないのは、ピンクは短大イメージとしているからであろう。

3 文京学院短期大学を色で言えば何色？

表3は、「文京学院短期大学を色で言えば何色？」という設問で、2色まであげてもらったのを、回答者群別に集計した結果である。

学部生と短大生の別ではなく、2003年度生群と2004年度生群で傾向を同じくしており、2003年度生では学部生群、短大生群ともに、ピンクと白や黄色のイメージが上位にあり、緑はそろって4位の、13%か17%の20名ほどがあげているにすぎない。

2004年度の学部生群、短大生群ともに、一位が圧倒的に緑、そしてピンク、黄色、白とつづき、5位に、青か赤という若干の違いを示す。

大学イメージとともに、文京カラーイメージ戦略が定着してきた結果だとみてよいものであ

表3 文京学院短期大学を色でいえば何色？（2色まで記入）

回答者合計	学部生03 130人	短大生03 118人	学部生04 124人	短大生04 101人
色表現総数	44	48	41	36
1位 回答者数 応答比率	ピンク 40人 30.8	白 32人 27.1	緑 42人 33.9	緑 48人 47.5
2位 回答者数 応答比率	黄色 31人 23.8	ピンク 31人 26.3	ピンク 33人 26.6	ピンク 35人 34.7
3位 回答者数 応答比率	白 30人 23.1	黄色 25人 21.2	黄色 28人 22.6	黄色 23人 22.8
4位 回答者数 応答比率	緑 17人 13.1	緑 20人 16.9	白 23人 18.5	白 17人 16.8
5位 回答者数 応答比率	青 14人 10.8	水色 16人 13.6	青 15人 12.1	赤 9人 8.9
	赤 11人	青 10人 オレンジ 10人		
参考までに	エメラルドグリーン 3人	エメラルドグリーン 4人	エメラルドグリーン 4人	エメラルドグリーン 5人

ろうか。

ちなみに参考までに、文京カラーと学生たちが見なしているのであろう「エメラルドグリーン」と記入した者の数を、表2、3につけておいた。

補表2は、回答者群毎に、大学色イメージと短大色イメージの第一表記色での、緑色とピンクにかぎってのクロス集計表にしてみたものである。各表の欄外に表記したが、各群とも、2割強の学生たちが大学イメージにも、短大イメージにも同じく緑色（系）をあげており、文京カラーの反映と言ってよいだろう。

4 東京は、色で言えば何色？

表4は、「東京は色で言えば何色？」という設問で、2色まであげてもらったのを、回答者群別に集計した結果である。

年度、学部、短大の別なく、彼女たちの東京に対する色彩イメージでは、半数を超える者がまず灰色をイメージする。ついで、黒、赤であり、さらに黄色、青、オレンジとイメージされ

補表2 文京学院大学と文京学院短大の色イメージのクロス表

03学部生群		N=130		短大色イメージ			
		みどり・ミドリ	緑・緑色・緑系	ピンク・ピンク色	その他	合計	
大学 色イメージ	みどり・ミドリ	8	0	2	6	14	
	緑・緑色・緑系	0	23	7	32	56	
	ピンク・ピンク色	0	1	1	4	6	
	その他	0	1	15	30	54	
合計		8	25	25	72	130	
		31/130=23.8%					

03短大生群		N=118		短大色イメージ			
		みどり・ミドリ	緑・緑色・緑系	ピンク・ピンク色	その他	合計	
大学 色イメージ	みどり・ミドリ	4	0	0	1	5	
	緑・緑色・緑系	0	25	0	12	37	
	ピンク・ピンク色	0	0	2	1	3	
	その他	3	10	12	37	62	
合計		7	35	14	51	107	
		29/118=24.6%					

04学部生群		N=124		短大色イメージ			
		みどり・ミドリ	緑・緑色・緑系	ピンク・ピンク色	その他	合計	
大学 色イメージ	みどり・ミドリ	6	0	2	8	16	
	緑・緑色・緑系	0	19	7	36	62	
	ピンク・ピンク色	0	0	3	4	7	
	その他	0	2	4	33	39	
合計		6	21	16	81	124	
		25/124=20.2%					

04短大生群		N=101		短大色イメージ			
		みどり・ミドリ	緑・緑色・緑系	ピンク・ピンク色	その他	合計	
大学 色イメージ	みどり・ミドリ	2	0	2	2	6	
	緑・緑色・緑系	0	21	7	9	37	
	ピンク・ピンク色	0	0	1	1	2	
	その他	1	4	10	23	38	
合計		3	25	20	35	83	
		23/101=22.8%					

ている。

近年、東京砂漠などと言われながらも、東京のあちこちで再開発もすすみ、若者たちでにぎわう都心のここかしこの若者スポットは、街も通りも店々も人々も色彩的にはカラフルに華やいでにぎにぎしく、決して灰色や黒色の無彩色ではないはずだが、彼女たちの東京に対する色

表4 東京は、色でいえば何色？（2色まで記入）

回答者合計	学部生03 130人	短大生03 118人	学部生04 124人	短大生04 101人
色表現総数	42	40	46	38
1位 回答者数 応答比率	灰色 65人 50.0	灰色 68人 57.6	灰色 65人 52.4	灰色 59人 58.4
2位 回答者数 応答比率	黒 43人 33.1	黒 38人 32.2	赤 38人 30.6	黒 31人 30.7
3位 回答者数 応答比率	赤 30人 23.1	赤 31人 26.3	黒 31人 25.0	赤 27人 26.7
4位 回答者数 応答比率	黄色 24人 18.5	青 19人 16.1	青 22人 17.7	黄色 19人 18.8
5位 回答者数 応答比率	青 24人 18.5	黄色 16人 13.6	黄色 13人 10.5	青 11人 10.9
	オレンジ 11人	オレンジ 13人	オレンジ 10人	オレンジ 10人

イメージでは、半数強が灰色イメージ、3割が黒イメージ、2割強が赤イメージというものであることを示している。東京の町中、公共の乗り物などで彼女たちが行き会う東京で働く人々の多くは、衣類からもそうだがモノトーンに見えると言うことでもあるのだろう。

東京というひとくりにしたイメージでは、雑多で無秩序で喧噪の大都会ということであり、赤、黄、オレンジに象徴されるのであろう。青が、2割弱の学生たちにイメージされ、4位、5位にあがっているのは、東京にも安らぎとうるおいのスポットがあるという学生たちであろう。

5 今のところ、あなたの生活は、色で言えば何色に表現しますか？色が気になるのは？

表5は、「今のところ、あなたの生活は色で言えば何色？」という設問で、2色まであげてもらったのを、回答者群別に集計した結果である。

2003年度、2004年度、学部生、短大生のそれぞれ4群で共通して、**オレンジ**、**白**、**黄色**、**青**のイメージが、順位に若干前後の違いは見せるが4位までにあげられている。3位までの色イメージでは、4群とも**オレンジ**、**白**、**黄色**をあげており、**青**の位置が、学部生群では2位、3位の位置なのに、短大生群では4位となって、青の応答率も2割をかなり割り込む。

次の5位にあがっている色イメージが、学部生では**ピンク**というのに対して、短大生では**水**

表5 今のところ、あなたの生活は色でいえば何色？（2色まで記入）

回答者合計	学部生03 130人	短大生03 118人	学部生04 124人	短大生04 101人
色表現総数	60	42	51	41
1位 回答者数 応答比率	オレンジ 40人 30.8	白 36人 30.5	オレンジ 32人 25.8	黄色 34人 33.7
2位 回答者数 応答比率	白 31人 23.8	オレンジ 30人 25.4	青 25人 20.2	オレンジ 29人 28.7
3位 回答者数 応答比率	青 31人 23.8	黄色 25人 21.2	黄色 26人 21.0	白 24人 23.8
4位 回答者数 応答比率	黄色 27人 20.8	青 21人 17.8	白 24人 19.4	青 17人 16.8
5位 回答者数 応答比率	ピンク 24人 18.5	水色 18人 15.3	ピンク 24人 19.4	灰色 16人 15.8
	灰色 14人	赤 17人	水色 17人	黒 10人
	水色 12人	緑, 灰色 各15人	灰色 16人	赤 10人

色や灰色、さらには6位まで見ると、黒や赤が選択されているが、7位までにピンクは選択されていないといった違いを示している。

大きな違いとは言い難いが、学部生群と短大生群で、上記のように生活感の色イメージに若干の違いがあるようではある。表現総数でも、学部生の方が若干多様な記述になっている。

いずれにせよ、彼女たちのあげる、**オレンジ**、**白**、**黄色**、**青**といった色からは、きわめて健康的で若々しく、快活に学生生活を享受している様が反映されているものと言ってよいだろう。

なお参考までにきいた、色が気になる、気遣っている方かという問いには、2004年度学部生60人中50人がはいと回答し、服装に関しての記述であった。小物やインテリアに関しても若干記述があったが、いいえと回答した者も服装について記述しており、日々の生活で服装が大きな関心事であり、彼女達の色彩はまず服装からということが伺える。

まとめにかえて

色彩関係の数々の書籍には、色の意味合い、色の持つ力、治癒力等々、さまざまな論述があるが、今回の素朴な問いかけに対する回答の色記述からは、そういった分析をするのが目的で

はない。

本学の文京カラーも、色彩的なシンボルカラーとしては7、8割方認知されているといえる現実だが、いわゆる大学のカラーと通称される、内実の充実に向けて、学生たちを巻き込んでさらに工夫と実践をしていく必要があるだろう。

おわりに

自然界はなんと美しい色をしていることかと、思い知らされる秋がめぐってきた。日本では言うまでもなく、春夏秋冬四季それぞれに、いずれ劣らぬ自然の配色の妙がある。人間はそんな自然に学び、日常の住まいや衣類に取り入れたり、芸術作品に引き写したりして、自然の恩恵を被って、生活に彩りをそえ、自己の色彩イメージや色彩感覚、「色彩力」を高めてきた。

経済発展で、ものがあふれ、身边には様々な音や色彩が氾濫していると言われる昨今だが、いつまでも溢れかえる雑然とした状態では落ちつかないことだろう。人々はいずれ、自分色を見だして、わが居場所やわが人生を、おさまりよく色づけしていこう。

先人たちの豊かな先例を参考にしながら、例えば、我が国の歴史的な町並みが持っている特徴的な落ちついた色彩調和の例、我が国の舞台芸術であり色彩芸術ともいえる歌舞伎や能楽の見せる絢爛とした色彩と、ワキやシテの衣装の落ちついた色調との対比調和の例、保存され一般公開されている伝統的な建物や庭園の自然と調和した色彩例、諸外国の色彩的にも斬新だが落ちついたモダンで機能的な建物の街づくりの例などなど、手本はありあまるほどある。人は、その単純なまねごとではない、学習と創造性によって、21世紀の彩りを作り出していくことだろう。そのためにも、心理学や教育心理学は、もっと役立つべきだろうと筆者は願う者である。人間がおかれている環境や日常生活の中で果たすべき自らの学問的役割を今少し自覚し、今少し積極的になるべきだろう。色彩療法や芸術療法といったことだけでなく、普段の日常的なこころの安らぎのためにも、身边の色彩環境の有りようとそこでのいきいきとした生活の有りようとの関連に心遣いし、人々に、学生・生徒・児童に、よりよい色彩環境への提言をしていくべきだろう。

参考文献

- フェイバー・ビレン著 佐藤邦夫訳 2003 ビレン色彩学の謎を解く―人類の福祉向上のための色彩心理学と色彩療法 青娥書房
- デボラ・T・シャープ著 千々岩英彰・齊藤美穂訳 1986 色彩の力 福村出版
- 千々岩英彰 1984 色を心で見る 福村出版
- 西川好夫 1972 新・色彩の心理 法政大学出版局
- 村山貞也 1988 人はなぜ色にこだわるか KKベストセラーズ
- 岩井寛 1987 色と形の深層心理 NHKブックス
- 松岡武 1994 色彩と心理おもしろ事典 三笠書房

- 松岡武 1995 決定版 色彩とパーソナリティ 金子書房
大山正 1994 色彩心理学入門 中公新書
金子隆芳 1988 色彩の科学 岩波新書
滝本孝雄・藤沢英昭 1977 入門色彩心理学 大日本図書
千々岩英彰 1997 人はなぜ色に左右されるのか 河出書房新社
テオ・ギンベル著 日原もところ訳 1997 カラーヒーリング 山調出版
末永蒼生 2001 心を元気にする色彩セラピー PHP
尾登誠一 2004 色彩楽のすすめ 岩波書店
末永蒼生・江崎泰子 2002 色彩記憶 色をめぐる心の旅 PHP
日本色彩学会編 2003 色彩用語事典 東京大学出版会

色彩イメージ調査項目

あなたの好きな色は、何色？ 1 2

あなたの嫌いな色は、何色？ 1 2

1 「色のイメージ」：下記の色はどんなイメージ（形容詞で言えば）？

1 青色は、 _____

2 緑色は、 _____

3 黄色は、 _____

4 オレンジ色は、 _____

5 赤色は、 _____

6 紫色は、 _____

7 黒色は、 _____

8 灰色は、 _____

9 白色は、 _____

10 ピンク色は、 _____

2 文京学院大学を色で言えば何色？ 1 2

文京学院短期大学を色で言えば何色？ 1 2

3 東京は、色で言えば何色？ 1 2

4 今のところ、あなたの生活は、色で言えば何色に表現しますか？ 1 2

5 あなたは、色が気になる、気遣っている方ですか (はい, いいえ)

どんな時・事に、またはどんな風に気になったり、気にしたりしますか。